

大阪府立池田高等学校 アメリカンフットボール部

日本で初めてアメリカンフットボールを取り入れた高校。2校あるうちの1校が「大阪府立池田高等学校」だ。高校アメリカンフットボールの始まりと、今を取材した。

青少年の表情を憂いて提案。 「心身錬磨にスポーツを！」

「皆さん。アメリカンフットボールをしましょう。私達が教えます」。校庭に現れたジープから、ボールを片手に降りてきたアメリカ人は言った。時は終戦後間もない1946年、秋のことだった。「大阪府立池田中学校（現池田高等学校）」に当時大阪府の教育指導者であった駐留米軍軍政部のエドモンド・ジョンソン氏と通訳のピーター・オカダ氏が視察に訪れた際、日本の生徒の覇気の無さ



「高校アメリカンフットボール発祥の地」を記念したモニュメント。OBの寄付により、1991年10月に建立された。正門をくぐってすぐ左手に見える



現在、アメリカンフットボール部の顧問は荒木雄造先生、そして大野恒彦先生の2人。荒木先生は同部のOBでもある

を目にし、危機感を募らせた。そこで両氏はアメリカンフットボールを生徒に始めさせるよう提案。青少年の育成にかに有効であるかを説いた。結果、防具が揃わないこともあり、ボール1個あればどこでも楽しめるタッチフットボール部が創部されることとなった。ピーター・オカダ氏がボールや道具を持参して指導を開始、「大阪府立豊中中学校（現豊中高等学校）」と共に研究指定校となった。日本の高校アメリカンフットボールの歴史はここから始まったのだ。

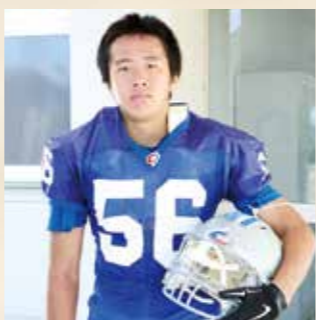
関西フットボールの礎に！ 池中・池高の活躍と影響

タッチフットボール部の創部が決まったからは、半ば強制的に各クラスから2、3名ずつ、部員が集められたそうだ。顧問となった新任体育教師、三隅珠一先生は、チーム育成の他、高校フットボールの組織づくりを進め、英・独語に精通していたことから、公式規定書の制定、翻訳等の作業にも携わった。初代「日本タッチフットボール連盟」の理事長も務めた。その功績を称え、全国高校選手権では第6回大会以降、「三隅杯（最優秀バックス賞）」が設けられた。

関西フットボールの礎となった選手
の存在も大きい。創設期のメンバーに



自分達で考えたメニューで練習。その様子を撮影し、映像をもとに戦略を立てる。「春季大阪大会」では事前準備が功を奏し、準優勝に輝いた



キャプテン八田 佑陽（はったゆうひ）君。1年生のころから試合に出場している。それぞれの役割やプレーを全員が理解しているチームを目指しているそうだ

は、「甲南大学」で創部の主力となった奥村統二氏、木村昌弘氏、同大学のヘッドコーチを務めた長手功氏、そして大学アメリカンフットボールの強豪校である「関西学院大学」の初期メンバーとなった古川明氏（元「日本アメリカンフットボール協会」理事長・現「関西アメリカンフットボール協会」理事長）がいる。氏は、2004年1月3日に「日本アメリカンフットボール協会」の殿堂入りを果たした。同校が輩出した数多くの優秀なOBは、常勝、大学、その他多くの大学の基礎を築き、審判や監督、コーチとしても活躍するなど、関西はおろか日本のアメリカンフットボール界に影響を与えている。

これほどの実績を持つOB。名門チームとしてのプレッシャーも大きいだろうと思っただけでなく、試合には激励に、学校のことよく解ってくださっていて、温かい目で見守ってもらえている」と顧問の二人からは意外な答えが返ってきた。土日には、ボランティアでコーチを引き受けてもらっているそうだ。

OBのバックアップのもと 文武両道で励む現役生

「自主・自立」。同校の校訓だ。活動計画を自分達で立案、実行していく。この精神は、練習に励む選手達に会って、受け継がれていると感じた。新しい練習方法を取り入れながら、限られた時間の中で練習に取り組む。が、そこはやはり進学校。クラブ活動と勉強とで時間制限がある。決して学業も疎かにはできない。文武両道は、間違いなくポリシーとしてあるそうだ。

練習や試合中には、必ずビデオカメラを回している。昼休憩中に生物講義室に集まるなどして、テレビ3台でポジションごとに映像を見ながら意見し合うのだとか。他にも、練習や試合の動画データ、スポーツ戦略に必要な情報・実績を管理できるツール「Hudl（ハドル）」を使い、課題や情報を共有している。参考になる動画をアツ



左から、木下 健太 君（クォーターバック）、副キャプテン 中俣 勇真 君（ランニングバック・キッカー）、副キャプテン 山田 詔太 君（ラインバック）



日本で最初の公式タッチフットボールの試合は、「豊中中学校」対「池田中学校」。かつての「阪急西宮球場」で行われた。創部から3年後、「第3回毎日甲子園バウル（ボウル）」の「高校タッチフットボール王座決定戦」で優勝を果たす（写真上）。大阪大会、関西大会、全国大会等で優勝する名門チームとなった

プロードしたり、顧問やコーチがアドバイスを書き込んだりと、上手くツールを使っている。今年の春、現在の3年生が最後に臨んだ大阪大会。彼らは準優勝し、関西大会への出場を果たした。その大事な一戦で、その効果が現れたそうだ。「この試合に賭けよう」。その思いで相手チームの映像を見て、裏をかく戦略を立てた。これが功を奏し、見事準決勝で勝利した。

ニックネーム「46ガリオンズ」は、スペインの大帆船「ガリオン船」の順風満帆な勇姿と世界を凌駕するイメージから、創部年と共に名付けられたという。今回取材に協力してくれたのは1・2年生の選手達。春季の関西大会出場。を旨とし、日々創意工夫を重ねる彼等のこれからの、順風に帆を上げる勢いで進むよう、祈っている。

